



# 郡南史跡めぐり

鈴木 光四郎

五月九日、磐城史跡会の例会は  
郡南の史跡を見学した。雨天にか  
わらず集会者は永山会長代下十  
六名、小名浜村松生十名、勿来中  
学の成田克俊氏の案内により勿  
来美術館、松山寺の重要文化財、  
金冠塚を観察調査したのである。

昭和29年5月1・2日

勿來美術館

勿來美術館は勿來興産のものと在  
り、慈安次郎氏の社会奉仕の念願  
と美術鑑賞の意識によって設立さ  
れ、財團法人組織となりて、陳  
列されている美術品は甲冑、刀剣  
馬具、古文書、繪画、陶器、武具  
と佛像、頭絵など五十余点の  
多きに達している。中には孝明天  
皇の乗鞍、武田信玄の徳川将軍の  
半纏など重要美術品と思われる  
のが多数陳列されてゐる。陳  
列深いものや少いものは遺憾であ  
るが、将来は国宝や重要美術品の  
賞与をうけて陳列する由であり、  
紳士文化の進歩に貢献するところ  
大なるものがあると思われる。

勿來美術館は天地九寸、長さ三  
十五尺のもので表記三月に重要文  
化財として指定されたのである。

「法華経八巻」金泥字  
隆文書

序

一、水晶念珠一通

一、金のん織布一枚

一、墨玉大詰城主印

二、縊親

三、金泥

四、紙金泥文

五、法華経八巻

六、金泥

七、金泥

八、金泥

九、金泥

十、金泥

十一、金泥

十二、金泥

十三、金泥

十四、金泥

十五、金泥

十六、金泥

十七、金泥

十八、金泥

十九、金泥

二十、金泥

二十一、金泥

二十二、金泥

二十三、金泥

二十四、金泥

二十五、金泥

二十六、金泥

二十七、金泥

二十八、金泥

二十九、金泥

三十、金泥



